



情報提供書Web入力フォーム説明書

NEDO先導研究プログラムの技術シーズに係る情報提供依頼（RFI）について

必要情報の入力及び情報提供書のアップロードを行ってください。

なお、他の方法（持参、郵送、FAX・メール等）による応募は受け付けません。

募集期間：2025年7月1日（火）～2025年8月29日（金）正午

※再提出は受付期間内なら何度でも可能です。同一の法人から同じ研究開発テーマ名の複数の情報提供が提出された場合は、最後の提出のみを有効とします。

また、再提出の場合は、差分ではなく、全書類を再提出してください。

※登録ボタンを押すと応募内容確認画面に移ります。内容を確認後送信ボタンを押すと受付番号が表示されます。受付番号が表示されるまでを受付期間内に完了してください。

入力・アップロード等の操作の途中で提出期限が来て完了できなかった場合は、受け付けません。

※通信トラフィック状況等により、入力やアップロードに時間がかかる場合があります。

特に期限直前は混雑する可能性がありますので、余裕をもって提出してください。

※研究開発テーマの補足説明については、NEDO指定様式のパワーポイント(「情報提供書」)にまとめてください。パワーポイントで作成したファイルを応募ページ最下段の「情報提供書」の欄からアップロードしてください（提出するファイルには、パスワードを設定しないでください）。

～（略）～

②記入例：「〇〇における〇〇〇〇〇〇〇の解決（解消、向上、拡大／低減、縮小、削減．．）」や「〇〇における〇〇〇〇〇〇〇の創出（創製、合成．．）」など

① 研究開発テーマ名 (必須) 20字以内で記載してください。

② 達成すべき技術課題 (必須) 40字以内で記載してください。

今回提供する技術シーズが該当すると思われる技術・事業分野を、以下よりいずれか一つを選択してください（複数選択不可）。

他に該当すると思われる領域がある場合には「その他」を選択し、領域の名称を記載してください。

- 新エネルギー分野
- 省エネルギー分野
- 蓄電池・エネルギーシステム分野
- 環境・省資源分野
- 電子・情報通信分野
- 材料・ナノテクノロジー分野（バイオを除く）
- バイオエコノミー分野
- ロボット・AI技術分野
- 新製造技術分野
- 自動車DX分野
- 境界・融合分野
- その他

③技術・事業分野の選択にあたっては、各分野に
どういった技術が含まれるかについては、[P4-5に](#)
[掲載の技術・事業分野一覧表を参照してください。](#)

③-1 技術・事業分野
(必須)

技術・事業分野の小項目番号を数字でご記入ください。小項目番号については、「情報提供書Web入力フォーム説明書」に記載の技術・事業分野分類表をご覧ください。

- ・複数の小項目に該当する場合は番号を列記して下さい（記載例：1、2、3・・・）。
- ・該当が不明な場合は「不明」と記載してください。

③-1 技術・事業分野
の小項目番号 (必須)

[P4-5に掲載の技術・事業分野一覧表を参照し、③-1でチェックした技術・事業分野の小項目の番号](#)を入力して下さい。
記入例「新エネルギー分野」をチェックした場合は該当分野の中から該当する番号を記載。
・複数の小項目に該当する場合は番号を列記して下さい（記載例：1、2、3・・・）。
・該当が不明な場合は「不明」と記載してください。

③-1 技術・事業分野一覧表

技術・事業分野	小項目	技術・事業分野	小項目	
1. 新エネルギー分野	1. 太陽光利用	4. 環境・省資源分野	20. 資源有効利用・資源循環システム	
	1. 1 (内 光触媒等太陽光発電以外)		21. 二酸化炭素有効利用化学プロセス	
	2. 風力利用		22. CO2原料による化学品製造技術 (プラスチック等)	
	3. 海洋利用、河川利用		23. DAC (Direct Air Capture) 技術	
	4. バイオマスエネルギー利用		24. その他のCO2大幅削減に結びつくプロセス 省エネ産業プロセス および 未利用熱利用技術 以外)	
	5. 地熱利用		25. 気象制御、環境測定・利用、その他	
2. 省エネルギー分野	6. 再生可能エネルギー熱利用		5. 電子・情報通信分野	26. 電子デバイス (パワーデバイス、センシング)
	7. 省エネ産業プロセス (製鉄プロセス、化学プロセス、産業機械等)			27. 量子コンピュータ
	8. 省エネ民生機器 (家電、空調、照明等。材料開発のみは29へ。)			28. 量子通信・暗号技術
	9. 省エネ運輸関連機器 (輸送用機械：車、電車等)			29. ディスプレイ、有機トランジスタ、照明、 (プリンテッドエレクトロニクス等含む)
	10. 航空機、空モビリティ (ドローン含む)	30. ネットワーク/コンピューティング (IoT関連)、光回路		
	11. その他モビリティ (水中ドローン含む)	6. 材料・ナノテクノロジー分野 (バイオを除く)		31. 構造材料
	12. 未利用熱利用技術 (熱電変換材料、ヒートポンプ、蓄熱、断熱、 遮熱、熱放射、吸熱、熱マネジメント、熱交換 技術)			32. 希少資源削減・代替技術
	12. 1 (内 材料開発が主になるもの)			33. 機能性材料
	12. 2 (その他 プロセス等材料開発以外)			34. マテリアルズインフォマティクス、プロセス インフォマティクス関連技術
	13. 高温超電導		35. 先端計測・分析技術	
3. 蓄電池・エネルギーシステム分野	14. 水素サプライチェーン (水素製造、貯蔵、 輸送、利用)		36. 革新的化学工学プロセス技術 (合成化学の 効率化)	
	15. 燃料アンモニア製造・利用		37. その他 材料・部材 (プロセス含む) (電子部材は26~30へ)	
	16. 水素燃料電池、水電解水素製造			
	17. 蓄電池			
	18. 電力系統・送電システム			
	19. その他 発電・エネルギー変換技術			

③-1 技術・事業分野一覧表

技術・事業分野	小項目
7. バイオエコノミー分野	38. バイオベース素材、バイオプラスチック
	39. 生物機能活用物質生産技術（合成生物学的手法など）、バイオ生産システム
	40. バイオ関連解析・計測／分析技術（新規解析技術、現状技術の高効率化・高精度化など）、情報解析技術（バイオ関連）
	41. バイオ研究開発のサイクル高速化、バイオ製造の高精度化・高速化・遠隔化技術
	42. 有機廃棄物・有機排水処理
8. ロボット・AI技術分野	43. 人工知能（AI）技術、AIの信頼性、進化型知能、知能ロボット（機械生産システム・産業ロボット含む）、AIにかかる空間コンピューティング
	44. ロボット活用省エネ、省人化技術（ドローン含まず）
	45. 自動走行社会システム、物流システム（ラスト1マイル含む） （次世代自動車技術は53～55へ）
	46. インフラ維持管理
	47. 航空機等先進機械システム（ドローン含む）、衛星利用、ロケット関連
	48. MEMS、分子ロボット
	49. その他のAIシステム等

技術・事業分野	小項目
9. 新製造技術分野	50. 産業用3Dプリンタ造形技術
	51. 次世代レーザー活用技術
	52. 革新的設計生産技術 （純粋な化学プロセス、機械生産システムは7.へ）
	53. SDV領域
	54. モビリティサービス領域
10. 自動車DX分野	55. データ利用領域
	56. 境界・融合分野 （上記55分野に分類を迷うもののみ）
	57. スマート農業、スマート林業関連技術
11. 境界・融合分野	58. その他 （上記57分野には該当しないと思うもののみ）
12. その他	

※

⇒ 以下③-2、③-3の項目については、**フロンティア育成事業に関する情報提供の場合に必ず記載してください(③-2、③-3のどちらか一方のみでも構いません)**。なお、フロンティア育成事業に関する情報提供以外の場合には記載不要です。

③-2 フロンティア領域 (該当する場合)

今回提供する技術シーズが下記、フロンティア領域に該当すると思われる場合は選択してください (複数選択可)。フロンティア領域については () に記載の Innovation Outlook (IO) 該当箇所及び関連する国の戦略等をご参照ください。

記載例: 「極限マテリアル (IO:3-5節、統合イノベーション戦略 2025 (2025年6月))」

- 次世代スマートデジタルアーキテクチャ (速さと省エネの両立) (IO:3-4節、統合イノベーション戦略 2025 (2025年6月))
- AI×Robotによる生産性革新 (IO:3-4節、統合イノベーション戦略 2025 (2025年6月))
- 地下未利用資源の活用 (IO:3-1節、エネルギー基本計画 (2025年2月))
- 長期エネルギー貯蔵 (IO:3-1節、エネルギー基本計画 (2025年2月))
- 環境・生体の高度センシング及び制御 (IO:3-6節、統合イノベーション戦略 2025 (2025年6月))
- 科学技術・イノベーション基本計画 (2021年3月)、バイオエコノミー戦略 (2024年6月)
- 極限マテリアル (IO:3-5節、統合イノベーション戦略 2025 (2025年6月))
- その他

提供する技術シーズがフロンティア領域に該当する場合は、③-2のリストから選択してください。選択肢に該当がない場合は「その他」を選択し、技術領域を記載してください。 ※フロンティア領域に関しては以下、Innovation Outlookも参照して下さい。
https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101862.html

③-3 フロンティア領域に関連する技術分野 (該当する場合)

今回提供する技術シーズが下記、フロンティア領域に関連する技術分野に該当すると思われる場合は選択してください (複数選択可)。

- 省エネ型AIコンピューティング
- AI融合技術
- 次世代ロボティクス (産業、サービス、フィールド (海中) など)
- フォトニクス (レーザーデバイス・材料、レーザー加工、光集積技術、光コンピューティング、テラヘルツ、センシングなど)
- 量子 (センシング、通信)
- ブレイン/ニューロテック
- リビングデバイス
- リビングマテリアル
- バイオセンサ
- 天然水素
- 次世代地熱 (EGS、超臨界地熱発電など)
- 蓄電・蓄熱
- 海洋におけるCO2回収・固定 (Direct Ocean Captureなど)
- 森林資源循環利用技術
- ヘルスフードテック
- 高温超電導導体
- パワーレーザー
- マイクロバイオーム (農業・畜産への応用など)
- その他

提供する技術シーズが③-3に該当する場合は、リストから選択してください。選択肢に該当がない場合は「その他」を選択し、技術領域を記載してください。

③-2、③-3についてはいずれか片方の入力でも結構です。

④-1 国の戦略 (必須)

今回提供する技術シーズが関係すると思われる国の戦略を以下より一つ以上選択してください（複数選択可）。
他に該当すると思われる戦略がある場合には「その他」を選択し、戦略の名称を記載してください。
該当するものがない場合には「該当なし」を選択してください。

- 革新的環境イノベーション戦略（令和2年1月21日統合イノベーション戦略推進会議決定）
- 2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略（令和2年11月26日閣議決定）
- 産業技術ビジョン2020（令和2年5月29日経済産業省）
- 統合イノベーション戦略2025（2025年6月6日閣議決定）
- マテリアル革新力強化戦略（令和7年6月4日統合イノベーション戦略推進会議決定）
- バイオエコノミー戦略（令和6年6月3日統合イノベーション戦略推進会議決定）
- AI戦略2022（令和4年4月22日統合イノベーション戦略推進会議決定）
- 量子エコシステム構築に向けた推進方策（令和7年5月30日量子技術イノベーション戦略推進会議決定）
- 半導体・デジタル産業戦略（令和5年6月 経済産業省 商務情報政策局決定）
- 「安全・安心」の実現に向けた科学技術・イノベーションの方向性（令和2年1月21日統合イノベーション戦略推進会議決定）
- 第7次エネルギー基本計画（令和7年2月閣議決定）
- 成長志向型の資源自律経済戦略（2023年3月31日策定）
- 該当なし
- その他

④-1の各戦略のURLについては、本資料の「参考」に記載。

*既存の国の戦略・ビジョン等に該当しなくても、この趣旨に該当するものであれば、RFIを提出していただくことは可能です。また、これ以外の国の戦略・ビジョンも記載いただいて構いません。

④-2 技術成熟度 (TRL) (必須)

今回提供する技術シーズの現時点におけるTRL（技術成熟度レベル）を自己評価し、以下よりいずれか一つを選択してください（複数選択不可）。
※TRLは各種文献を踏まえ作成

- TRL1 科学的な基本原理・現象の発見・確認
- TRL2 原理・現象の定式化、応用可能性の確認、応用的な研究
- TRL3 技術コンセプトの確認、要素技術の構想（創案・調査・予備実験・設計）
- TRL4 各開発要素の製作と性能確認、応用的な開発（要素レベル）
- TRL5 全てを統合した実証システム（試作品）の製作（要素レベル）
- TRL6 実証システム（試作品）の導入環境に近い環境での実証（システムレベル）
- TRL7 製品候補の製作と導入環境での実証（システムレベル）
- TRL8 製品の製作と販売（パイロットライン）
- TRL9 商品化、大量生産

④-2については、今回提供する技術シーズの現時点におけるTRL（技術成熟度レベル）について、自己評価し、いずれか1つを選択してください。

※TRL:各種文献を踏まえ作成

**⑤-1 先導研究の内容
(技術的な問題点と
解決手段) (必須)**

500字以内で記載してください。
問題点を解決するための手段をわかりやすく明記してください。

⑤-1～⑤-3については、今回の情報提供が、ハイリスク・ハイリターンでチャレンジングなものであることを、できるだけ簡潔・具体的に、記載してください。

記載にあたっては、問題を解決するためにどのような革新的な技術を創出するのか(手段)を論理的に、また、提案する解決手段の妥当性も含めて記載してください。

*妥当性については、技術シーズの根拠となるような実績・基礎研究の成果をもった提案であることが客観的にわかるように、例えば、代表的な論文等について、「この技術シーズは〇〇〇〇(論文名等)で2024年〇月に発表したものであり、基礎研究を〇年継続してきて基礎データは蓄積されている」のように、具体的に記載してください。

**⑤-2 研究開発テーマ
の革新性 (必須)**

100字以内で記載してください。
従来が発想や方法も簡単に説明し、どのような点が革新的であるか記載してください。

**⑤-3 研究開発テーマ
の従来技術や競合技術
に対する優位性
(必須)**

100字以内で記載してください。
従来技術や競合技術も簡単に説明し、どのような点で優位性があるか記載してください。

⑤-4 代表的な論文や
出願特許等(該当する
場合)

⑤-1～⑤-3に関連し、提案する解決手段の妥当性、技術の革新性・優位性等の客観的なエビデンスとしての代表的な論文や出願特許等を記載してください。該当がない場合は「なし」と記載してください。

記載する際の留意点

- ・ 500字以内で記載してください。
- ・ 論文を記入する場合は、以下の記入例に沿ってご記載ください。また、論文にDOIが付与されている場合はDOIも最後にご記載ください。

【記載例】 著者名, "論文タイトル,"雑誌名, 巻, 号, 掲載年, ページ, DOI

- ・ 特許の番号を記入する際は、原則「公開番号」又は「特許番号」で記載してください。また、原則、2桁の国コード("JP"、"US"、"EP"など)、公開種別("A"、"B"、"A1"など)も記載してください。英数字は半角で入力し、番号中に記号("-"や"/"など)を含む場合は除いてください。

※使用不可能な文字についてはWebフォームの冒頭に赤字でまとめて記載しています。

【特許の番号の記載例】

- JP2025123456A (日本国特許庁への出願で、公開番号が特開2025-123456、公開種別がAの場合)
- JP1234567B1 (日本国特許庁への出願で、特許番号が1234567、公開種別がB1の場合)
- US20250123456A1 (米国特許商標庁への出願で、公開番号が2025/0123456、公開種別がA1の場合)
- EP1234567A1 (欧州特許庁への出願の場合で、公開番号が1234567、公開種別がA1の場合)
- ・ 複数記載する場合は全角の読点「、」で区切って記載してください。
- ・ 複数記載する例：JP2025123456A、US20250123456A1、EP1234567A1

⑤-4については、⑤-1～⑤-3に関連し、提案する解決手段の妥当性、技術の革新性・優位性等の客観的なエビデンスとしての代表的な論文や出願特許等を記載してください。
記載例を参考に情報を入力してください。
該当がない場合は「なし」と記載してください。

<p>⑥ 社会実装のイメージ・インパクト (必須)</p>	<p>300字以内で記載してください。 2040年以降の実用化イメージ、産業への波及効果等を具体的に示してください。</p> <div data-bbox="788 301 1889 753" style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; background-color: #fff9c4;"> <p>⑥については、情報提供いただく先導研究が成功裏に本格的な研究開発へ発展し、最終的な開発成果が得られた場合に、どのように政策課題の解決に貢献し、社会に還元されるのかを、社会実装のイメージや産業へ及ぼすインパクト等を示して簡潔・具体的に記述してください。 技術的に達成される仕様（例えば、効率、寿命等）や、可能であれば、その開発技術が最終的に実用化されたときに想定される経済的効果、市場規模、省エネ効果、CO2削減効果等を、競合技術に対する経済的優位性を示しつつ、記載してください。 効果の算出にあたっては、入手できる定量的データ等の根拠も合わせ記載してください。</p> </div>
<p>⑦ 類似する研究開発プロジェクト (該当する場合)</p>	<p>今回提供する技術シーズに類似する研究開発が、過去又は現在、他の研究開発制度・プロジェクトで行われている場合に、実施期間、配分機関名、制度・プロジェクト名を記載してください。 (記入例 ●●年～○○年配分機関名(制度・プロジェクト名))</p> <div data-bbox="1108 905 1889 1148" style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; background-color: #fff9c4;"> <p>⑦は、今回提供する技術シーズについて、過去又は現在、類似する研究開発が他の研究開発制度・プロジェクトで行われている場合に、実施期間、配分機関名、制度・プロジェクト名を記載してください（前身のJST事業等も含む）。</p> </div>
<p>⑧ 既提案先部署名 (該当する場合)</p>	<p>今回提供する技術シーズを、経済産業省 (METI) やNEDOの部署に提出する場合は、当該部署名を記載してください。 (記入例 METI○○課、NEDO○○部)</p>

※	⇒ 以下⑨の項目については、 国際共同研究開発に関する情報提供の場合に必ず記載してください（⑨-4及び⑨-5は任意記載可） 。なお、国際共同研究開発に関する情報提供以外の場合には記載不要です。
⑨-1 国際共同研究に関する情報の提供先（必須）	国際共同研究に関する情報提供の場合は、今回提供する技術シーズの情報提供先について以下よりいずれか1つを選択してください（複数選択不可）。 <input type="checkbox"/> 国際共同研究開発のみ（国内研究開発には希望しない）。 <input type="checkbox"/> 国際共同研究開発及び国内研究開発の両方に情報提供を希望する。
⑨-2 想定される海外共同研究先（国・地域名と機関名）（必須）	（記入例） ○○○○○○国 ○○○○研究所 <input type="text"/>
⑨-3 国際共同研究の意義・メリット（必須）	500字以内で記載してください。 <input type="text"/>
⑨-4 当該研究分野における相手国側の政策・戦略等プログラム（任意）	当該研究分野における相手国側の政策・戦略や、海外共同研究先が参画（予定）するファンディングプログラム等があれば300字以内で記載ください。 <input type="text"/>

⑨は、国際共同研究開発に関する情報提供の場合に必ず記載してください。ただし、⑨-4及び⑨-5は任意記載とします。

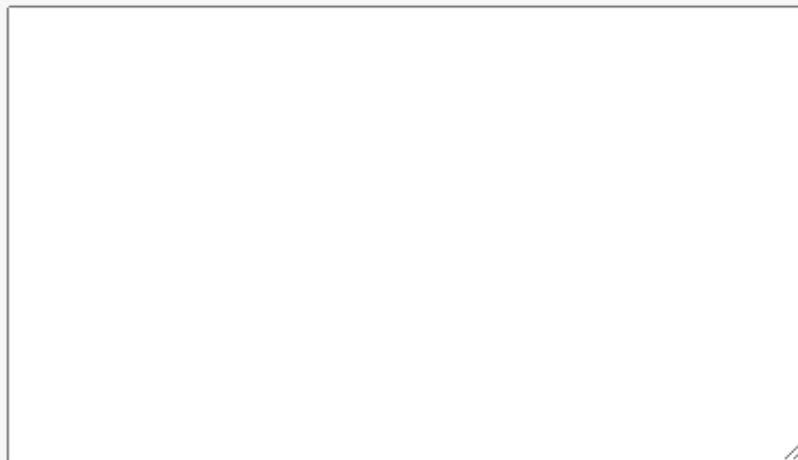
なお、国際共同研究開発に関する情報提供以外の場合には、⑨の項目はいずれも記載不要です。

⑨-3は、経済産業省が2019年11月6日に公表した「国の研究開発プロジェクトにおける国際連携強化に関する基本的な考え方」（※）を適宜ご参照いただき、国際共同研究開発を行うことが有意義な理由（国際共同研究の必要性、日本側へのメリット、海外の研究機関の選定理由、研究の役割分担）をなるべく具体的に記載願います。なお、上記の基本的な考え方におけるプロジェクトの類型として「①技術獲得・共創型」、「②市場獲得・創出型」、「③持帰型（海外研究環境・事業環境の活用）」があげられております。

※
https://www.meti.go.jp/policy/innovation_policy/basic_policy.html

想定される研究実施体制（海外共同研究先含む）及び役割分担、研究開発期間、必要経費概算（〇千円、研究開発期間）について、可能な範囲で記載ください。

⑨-5 想定される国際共同研究実施体制 (任意)



⑩ NEDO VIPワークショップの活用 (任意)

先導研究プログラムでは、RFIに応じて提出された情報から、公募課題にいたらなくとも、NEDOが抽出した技術提案に関するワークショップ等を開催することで、情報発信や交流の機会を作る取り組みとしてビジョナリー・インキュベーション・プログラム (VIP) を行っています。

VIPによって産学官で技術や社会像 (ビジョン) を議論、共有することで、新しい技術のネットワークやコミュニティの形成・拡大に寄与し、次のRFIへの情報提供に活用いただくことを期待するものです。

VIPについては以下をご覧ください。「NEDO新技術先導研究プログラム/RFI情報提供者によるビジョナリー・インキュベーション・プログラム (VIP) ワークショップ」の開催報告

https://www.nedo.go.jp/events/report/Z2MS_00019.html

※なお、VIPは今後の公募課題設定を約束するものではありません。

- 機会があればVIPワークショップを活用したい。
- VIPワークショップの活用は希望しない。
- 現時時点で判断は保留したい。

⑩については、RFIに応じて提出された提案中に存在する有望な技術シーズについて、情報発信を行う新しい取り組みであるビジョナリー・インキュベーション・プログラム (VIP) ワークショップについての設問です。ご希望に応じて1つ選択をお願いします (任意回答)。

VIPについては以下もご参照ください。

「NEDO新技術先導研究プログラム/RFI情報提供者によるビジョナリー・インキュベーション・プログラム (VIP) ワークショップ」の開催報告

https://www.nedo.go.jp/events/report/Z2MS_00019.html

機関名 (法人名) (必須)	個人の方による情報提供の場合は「個人」と記載ください。 <input type="text"/>
法人番号 (13桁)	半角数字13桁で記載してください。 ※法人番号は国税庁 サイト (https://www.houjin-bangou.nta.go.jp/setsumei/) を参照 <input type="text"/>
所属部署	<input type="text"/>
役職名	<input type="text"/>
氏名 (必須)	姓名の間に全角スペースを入れてください。 <input type="text"/>
氏名 (ふりがな) (必須)	ひらがなのみ 姓名の間に全角スペースを入れてください。 <input type="text"/>
郵便番号 (必須)	半角数字7桁 (ハイフンなし) <input type="text"/>
住所 (必須)	<input type="text"/>
電話番号 (必須)	半角数字 <input type="text"/>
メールアドレス (必須)	<input type="text"/> (確認用の再入力) <input type="text"/>
初回の申請受付番号 (必須)	再提出の場合のみ記載してください。 ※初回提出時は「なし」と記載してください。 <input type="text"/>
情報提供書 (必須)	NEDO指定のパワーポイント形式で作成したファイルをアップロードしてください。 ※ファイル名は「○○○○○ (テーマ名の最初の5文字) _△△△△ (提出者氏名) _▽▽▽▽ (所属機関名 (略称可、個人の場合は省略))」としてください。 ※パスワードは設定しないでください。 <input type="button" value="ファイルの選択"/> ファイルが選択されていません

初回提出時には、「なし」と記載してください。提出期間内であれば何度でも提出可能であり、再提出の場合には、初回提出時に付与された受付番号を記載してください。

NEDO指定のパワーポイント形式で作成したファイルをアップロードしてください。

※ファイル名は「○○○○○ (テーマ名の最初の5文字) _△△△△ (提出者氏名) _▽▽▽▽ (所属機関名 (略称可、個人の場合は省略))」としてください。

登録

閉じる

- ・革新的環境イノベーション戦略（令和2年1月21日統合イノベーション戦略推進会議決定）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/siryo/haihui048/siryo6-2.pdf>

- ・2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略（令和3年6月18日関係府省）

https://www.meti.go.jp/policy/energy_environment/global_warming/ggs/pdf/green_honbun.pdf

- ・産業技術ビジョン2020（令和2年5月29日経済産業省）

https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/sangyo_gijutsu/kanky_innovation/pdf/20200529_05.pdf

- ・統合イノベーション戦略2025（2025年6月6日閣議決定）

https://www8.cao.go.jp/cstp/tougosenryaku/togo2025_honbun.pdf

- ・マテリアル革新力強化戦略（令和7年6月4日統合イノベーション戦略推進会議決定）

https://www8.cao.go.jp/cstp/material/material_2025_honbun.pdf

- ・バイオエコノミー戦略（令和6年6月3日統合イノベーション戦略推進会議決定）

https://www8.cao.go.jp/cstp/bio/bio_economy.pdf

- ・AI戦略2022（令和4年4月22日統合イノベーション戦略推進会議決定）

https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/aistrategy2022_honbun.pdf

- ・量子エコシステム構築に向けた推進方策（令和7年5月30日量子技術イノベーション会議より報告）／量子産業の創出・発展に向けた推進方策（令和6年4月9日量子技術イノベーション会議より報告）／量子未来産業創出戦略（令和5年4月14日統合イノベーション戦略推進会議決定）／量子未来社会ビジョン（令和4年4月22日統合イノベーション戦略推進会議決定）／量子技術イノベーション戦略（令和2年1月21日統合イノベーション戦略推進会議）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/ryoshigijutsu/ryoshigijutsu.html>

- ・半導体・デジタル産業戦略（令和5年6月 経済産業省 商務情報政策局決定）

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/conference/semiconductors_and_digital.pdf

- ・「安全・安心」の実現に向けた科学技術・イノベーションの方向性（令和2年1月21日統合イノベーション戦略推進会議）

https://www8.cao.go.jp/cstp/anzen_anshin/anzen_2.pdf

- ・第7次エネルギー基本計画（令和7年2月閣議決定）

https://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic_plan/

- ・成長志向型の資源自律経済戦略（2023年3月31日策定）

<https://www.meti.go.jp/press/2022/03/20230331010/20230331010.html>